2024/03/04

# 神戸大学数理・データサイエンスセンターアドバイザリーボードからの意見と提言

## 1. 数理・データサイエンスセンターの活動についての意見

### 1.1 全学教育活動について

- 多数の受講生に対して質の高い多彩なプログラム・講座・演習を提供し，受講生の評価や満足度も高く，センターのミッションを継続して着実に達成しており，高く評価できる。
- オープンバッジによりプログラム履修のインセンティブ を付与されている取組を評価する。
- 外国人留学生への対応として，英語字幕を付与し展開していることは評価できる。対象科目を履修した留学生を TA としての活用を検討すると良いのではないか。

### 1.2 研究活動について

- データサイエンスセンターの活動進捗状況によると，研究分野において目標値を超えた活発な活動状況が確認できる。
- 科研費採択件数や共著論文数といった研究に関する KPI の目標値は，どのような考え方で設定されているのか。教育を主要なミッションとする本センターにおいて，それら目標値を学内他部署と同程度とするのは，現実的ではない面もあるように思われる。

### 1.3 連携活動について

- 多くの機関との連携活動があり，素晴らしい。国際連携活動が再開しつつあると思うので，来年度以降に国際共著論文等が増えることを期待する。
- 中学生・高校生データサイエンスコンテストについては，毎年全国から参加申し込みがあり，学生らしい独自性の高い提案がなされており，評価できる。

### 1.4 リカレント教育活動について

- 各プログラム・講座・演習の位置づけを，ITSS レベルとの対比で示している点は，リカレント教育の一環として受講を検討している者にとってはわかりやすく，評価できる。
- DX 基礎講座については，受講者の満足度も高く，社会のニーズにあったプログラ

ム内容だと思われる。DX エキスパートへの段階的なリスキリングも可能となっていて評価できる。

### 1.5　その他

- ダイバーシティ推進に関して，女性教員が在席していることは評価できる。

## ２．今後の活動に対する提言

- 学部生や大学院生に教育活動に協力してもらうよう積極的に進めてはどうか。教えるために勉強するので教育効果も期待でき，ＴＡ雇用によって学生の経済的支援を行うこともできる。また，PBL として設定し，単位認定に結び付けることで，教員の負荷削減と学生への教育効果の両方が期待できると考える。リカレント講座においても，学生，大学院生を活用してもよいと考える。学生にとってもリカレント事業に携わる経験は貴重だと思うので，予算措置の中で検討していただきたい。
- 全学教育から研究，連携，リカレントまでこの人数でよくカバーされており，ご苦労に感服している。リカレント教育実施プロセスを(1)事業企画・運営，(2)講義コンテンツ企画・制作，(3)講義実施の 3 つの段階に分けた整理は良いと思う。(1)事業企画・運営は大学にやっていただきたいが，それ以降はしかるべき組織を見つけて連携を検討いただくのがよいのではないか。大学の果たすべき役割をしっかり定義し，無理のないリカレント教育を進めてもらいたい。
- 地域へのリカレント教育の展開については，関西経済連合会，関西経済同友会などを教育プログラム提供主体とし，コンサルティング会社等が実際の教育を提供する。センターの役割は，その教育プログラムの基本になる企画を策定することだと考える。
- 数理・データサイエンスセンターにおいて，企業から派遣する社会人大学院生を受入れ，教育から研究者の育成まで一貫してフォローして欲しい。学内の事情もあり難しいと理解しているが，データサイエンス領域の研究者は企業内でも必要となっており，企業との連携推進のためにも検討して欲しい。
- 資料 3 の KPI の達成状況において，自ら設定した目標値と実績値との比較になっているが，データサイエンスや AI に関するプログラムを提供している大学のなかで，神戸大学のセンターがどの程度頑張っているかを同分野の平均値や，同規模の他組織との比較を通じてアピールできると良い。論文数，競争的資金等での比較など工夫して欲しい。
- 専任教員８名の他，兼務教員を含めると相当規模の組織になってきている。会議体の設置状況，意思決定プロセス等のセンター内ガバナンス体制を明確にし，適切な運営がなされていることがわかるように，適宜開示してもらいたい。

アドバイザリーボード （2024 年 3 月現在）

西口健二

藤岡健

盛合志帆

松本健一